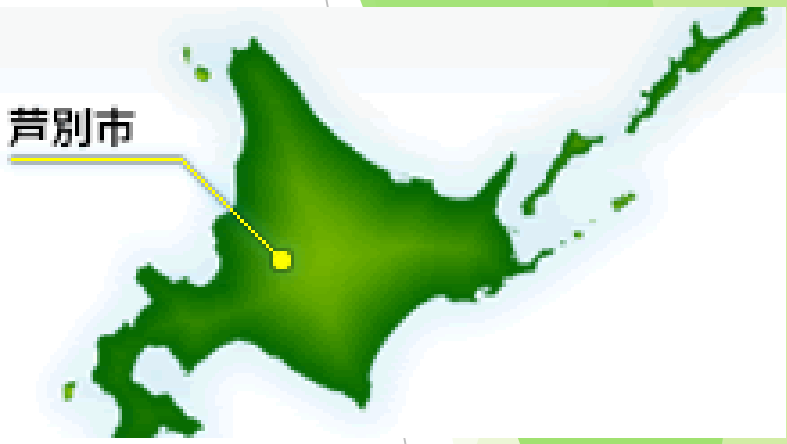
芦別市地方創生塾

芦別市教育委員会
生涯学習課社会教育係
主任・社会教育主事　髙島　巌夫

芦別市の概要

　芦別市は、東西に約25ｋｍ、南北に約49ｋｍと全国の都市部の中でも広大な面積（865.04㎢）を持ち、その８８％が森林です。
　降るように美しい星が瞬く夜空といった自然環境を生かし、昭和59年に「星の降る里」を宣言、今では、観光の枠を超えさまざまな場面において芦別市のイメージとして使われています。



○基本情報（令和4年12月末現在）

総人口　11,976人　　世帯数　6,970世帯

○産業（RESAS 売上高（企業単位）2016年）

製造業（39.4%）　卸売業・小売業（17.1%）　建設業（11.3%）
医療・福祉（9.2%）　鉱業・鉱石業・砂利採掘業（6.8%）
農業・林業（5.2%）　運輸業・郵便業（3.0%）

○アクセス

車　：道央自動車道（滝川IC）から 約30分
電車：札幌駅から芦別駅まで 約1時間40分
バス：札幌から芦別まで高速バス 約1時間50分

北海道芦別高等学校の概要

昭和23年に現在の形となってから、生徒は地元芦別市からの入学生が最も多く、近隣の赤平市、滝川市、歌志内市、年度によっては富良野市から通学する生徒もいます。現在、芦別市内の高等学校は「北海道芦別高等学校（普通科）」と「星槎国際高等学校芦別学習センター（通信制）」の2校のみ。

○生徒の概要（令和3年度）

・生徒数：157名　1年 53名（男 27・女 26）、 2年 51名（男 21 ・女 30）、 3年 53名（男 31・女 22）

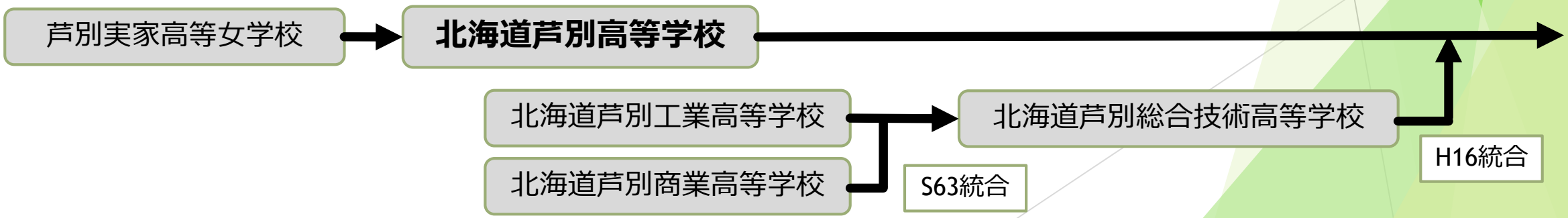
・出身中学校：芦別中学校 79名、啓成中学校 28名、赤平中学校 47名、その他 3名

○進学・就職の概要（令和2年度）

・進学合格者数　：計 47名（国公立大学 1名、私立大学 8名、私立短大 6名、看護学校 12名、専門・各種 20名）

・地域別就職状況：計 33名（男 20名・女 13名【全て道内】）

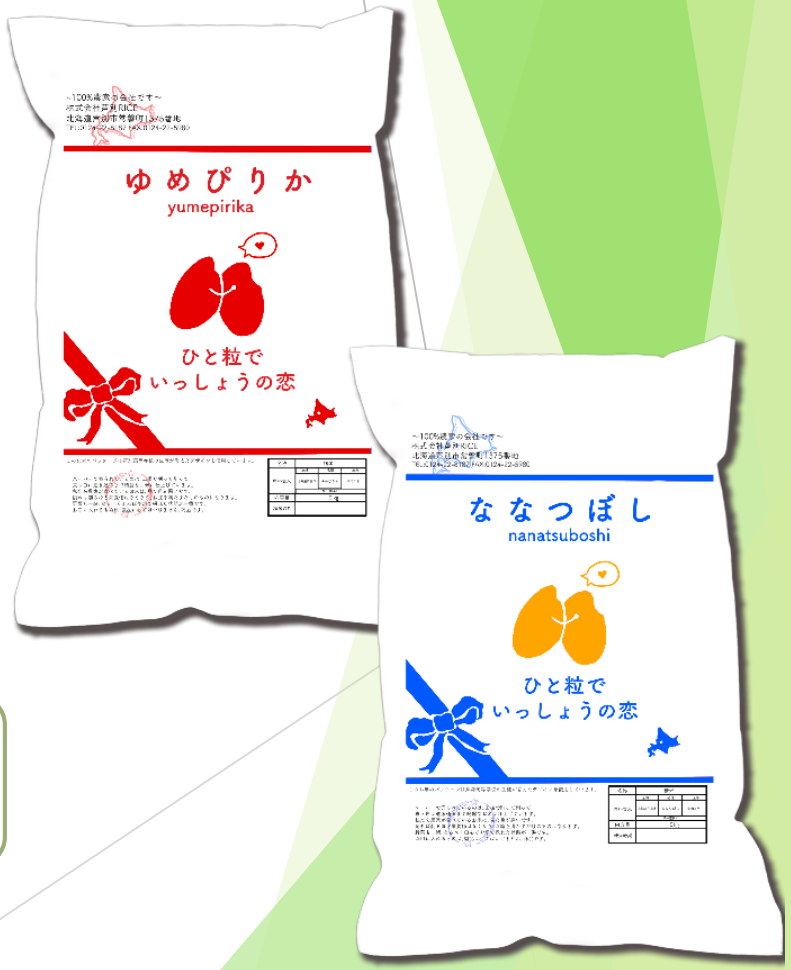
・公務員合格者数：計　8名（国家公務員：3名、地方公務員5名【全て男】）



芦別市の学校との取組例（ふるさと納税）

令和３年度は、「共想のふるさと納税」として、「課題研究」の授業の中でふるさと納税について学び、芦別が自慢できる特産品を全国にＰＲしていくため、芦別、芦別米のロゴやキャッチフレーズを提案していただきました。

このお米のパッケージは芦別高等学校の生徒のデザインを使用しています。



高校生が考えたキャッチフレーズ『ひと粒でいっしょうの恋』と米粒で寄り添う恋人を表すロゴをふるさと納税の返礼品や道の駅での販売に利用

事業のポイントと考え方

○主役は高校生

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿を実施する。

○高校生に何を学んでもらうか？

高校生と言っても性格や個性は様々であるが、共通して感じるのは『こどもっぽい』であった。
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ としたら、＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿がきっと将来の役に立つはず。

○大人にとっても学びの場

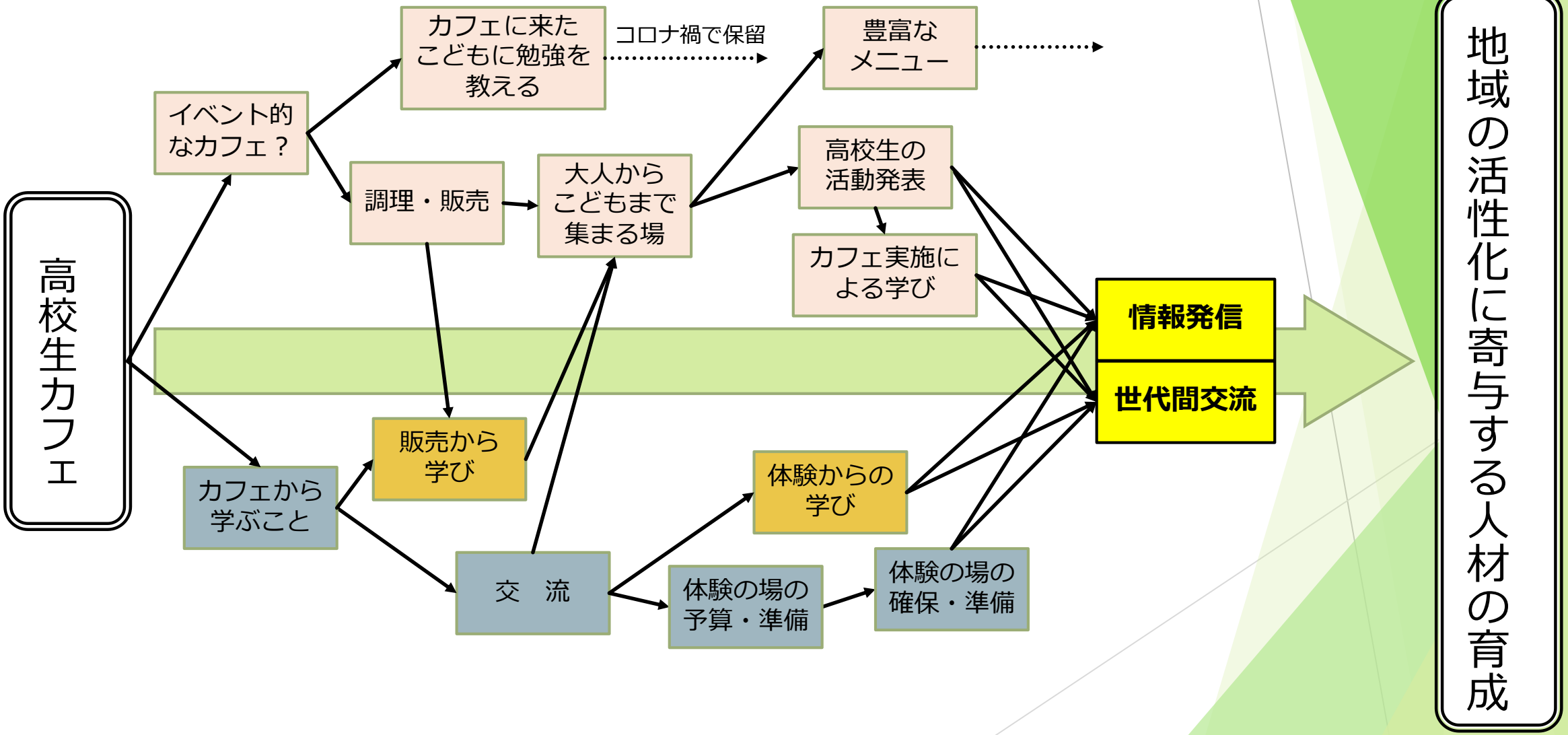
高校生が『知らないこと』『わからないこと』が多いのは当然のこと。
一方で、＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿、大人も学ぶことが多い事業と考える。

□ダニング＝クルーガー効果

能力や専門性の低い人は自分の能力を過大評価する傾向がある、という認知バイアスについての仮説。
また、能力の高い者が自分の能力を過小評価する傾向がある、という逆の仮説を定義に含めることもある。

- ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿**を認識できない。**
- ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿**を認識できない。**
- ＿＿＿＿＿＿＿＿**を正確に推定できない。**
- **その能力について＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿であれば、＿＿＿＿＿＿＿＿を認識できる。**

事業の進み方のイメージ



ほっかいどう学地方創生塾（令和２年度～令和３年度）

１．目　　的

（１）本事業は、地域の様々な機関や住民等との連携によるワークショップや講演等の実施を通して、地域活動やまちづくりに貢献する人材を育成し、地域の活性化に寄与することを目的とする。

（２）本事業は、北海道立生涯学習推進センターの調査・研究として、問題解決を目指す住民参画型の事業を実証開発し、プロセス・手段とその評価について検証する。

２．主　　催

北海道立生涯学習推進センター及び各会場実施団体

３．実施期間

令和２年４月１日～令和４年３月３１日（２年間）

４．内　　容

本事業は、次に掲げる事項に関して、実施団体と調整のうえ、地域活動やまちづくりに貢献する人材を育成するための参画型の講座を実施する。

（ほっかいどう学地方創生塾開催要項より抜粋）

塾長及び特別講師について

　芦別高校の生徒は、ほぼ芦別と赤平から通学していること、市外から来た人の方が色んな目線で地域を見ており、元地域おこし協力隊で地域に残って活動をしている２人に塾長を依頼しました。
　また、令和３年度において、道の駅（屋外）で実施を検討するなかで、調理や販売等に対する助言のほか、保健所に申請・許可を得る必要があり、専門知識を持つ特別講師を依頼。

・**塾長：あしべつ未来の森協同組合　常務理事　新村　充　氏**
　東京都渋谷区から芦別市に地域おこし協力隊として2016年に移住。
　市農林課林務係で山の管理や林業等の業務を覚えながら、狩猟免許も取得。任期後は市議会議員として活躍する傍ら、民泊の経営、林業従事者及びハンターとしてマルチに活動中。

・**塾長：Ka2 Design フリーデザイナー　大倉　加奈　氏**
　札幌市出身。「炭鉱まちに住みたい」と赤平市に地域おこし協力隊として2014年に移住。
　現在はNPOなどの仕事を掛け持ちしながら空知を中心にデザイナー、ライターとして活動中。2020年には民泊系ゲストハウスを赤平市にオープン。

・**特別講師：秋田屋旅館　阿部　真久　氏（令和３年度～）**
　芦別市出身。道の駅レストランやスターライトホテルで料理人として勤務を経て、現在は市内で旅館を経営。
　また、芦別青年会議所での活動経験もあり、単に商品開発・販売に留まらない助言や指導が期待できることから講師の依頼に至る（ちなみに芦別高校ＯＢ）。

令和２年度の活動概要

第1回地方創生塾（9月）

【参加の理由】
・芦別のよいところを知りたい。
・自分が住んでいるところの良さを他の人にも知ってほしい。

【意見交換】
・自分で食べてみた芦別名物。
・現在、紹介されていないことを掘り下げた情報発信する。
・高校生カフェはできないか？

第2回地方創生塾（10月）

【高校生カフェに必要なもの】
・入りやすく、落ち着いた雰囲気。
・子ども連れも入りやすい。
・外から中が見やすく、場所も便利な所。

【高校生の実情】
・市内の喫茶店に行ったことがない。
・年配の常連が多く、入りにくい。

現地視察

まちの駅　ふらっと（上砂川町）
提供メニューのほか、カフェ運営の工夫や苦労などを聞く。

第3回地方創生塾（11月）

【店名】
・ヨッテ（YOTTE）

【ターゲット】
・０～１００歳まで幅広く

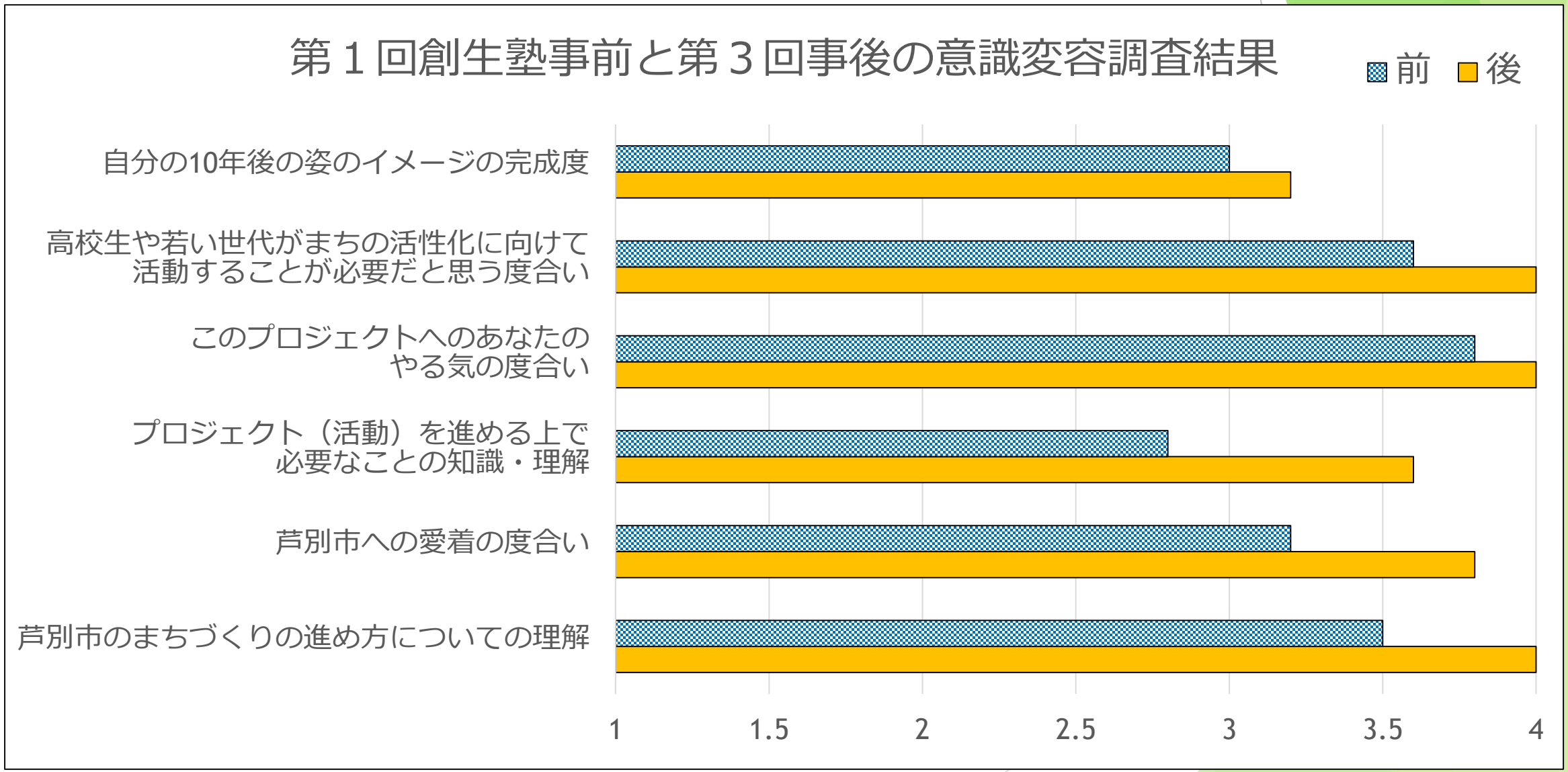
【具体的な設備】
・芦別の情報を発信できる。
・店員やお客様同士で交流できる。
・子ども用スペース。
・勉強できるスペース。

【メニュー】
・飲み物（コーヒー、ココア、スムージー、コーラ etc）
・食べ物（サンドイッチ、カレー、パスタ、パンケーキ etc）

グループワークの様子

高校生が放課後に立ち寄れる場所や世代間交流ができる場所づくり

令和２年度アンケート結果



令和３年度実施に向けた現状と課題

寄付金（基金に積立）を地方創生塾の取組に活用することが決定！
しかし、当初の予定はグループワークが中心であり「高校生カフェ」を現実に営業するのは想定外…

まずは現状と課題の整理から始めました。

現　状

・当初予算はない。
・常設の営業まで考えていなかった。
・まだ学校に説明はしていない。
・もちろん塾長も　知らない。

課　題

・いつ（When）　～ 令和３年度以降
・どこで（Where）～ 市内の喫茶店？
・誰が（Who）　～ 高校生と協力者（人・団体）？
・何を（What）　～ カフェ＋「世代間交流の場」＋「情報発信の場」＋α
・なぜ（Why）　～ 地域の担い手の育成
・どうやって（How）～ これから考える…
・その他 ～ 市予算は？ 将来的な運営を含む見通し、新型コロナウイルス対策 etc

高校生カフェ…（常設営業で、将来は独立＋行政から自立して etc）

令和３年度の活動概要（１）

第1回地方創生塾（7月1回目）

最初に、高校生の意向を確認から！
・令和３年度は「高校生カフェ」の実現に向けた活動を行いたい。
・年間スケジュールの確認
・メニューと実施場所（候補）を高校生に考えてきてもらう。

第2回地方創生塾（7月2回目）

・１０月カフェ実施に向けて、場所を「道の駅」に決定。
・新型コロナウイルス感染症を考慮し、屋外で実施。

<u>実施に向けた準備作業</u>
○会場となる「道の駅」の施設使用等の調整・協力依頼
（芦別市商工観光課、芦別観光協会（道の駅管理者））
○器材のレンタル及び物品の準備
○市予算の確保（９月市議会に補正予算）

第3回地方創生塾（8月）

・高校生の役割分担について
○デザイン・広報：ロゴ、チラシ・ポスターのデザイン等
○飲 食 関 係　：提供メニューの決定
○企 画 関 係　：単なるお祭りで終わらない企画・アイディア

第4回地方創生塾（10月1回目）

・令和３年度のカフェ中止、令和４年度の実施に向けた活動
・次回以降、試作することを決定
・年間スケジュールの変更
（関係者に限定した試作会、令和３年度活動の報告会など）

第5回地方創生塾（10月2回目）

・来年度に向けた試作
（安全面に気を付けながら、まずは高校生のやりたいように）
・塾長以外の地域住民の協力
調理等の指導（特別講師）：秋田屋旅館　阿部真久　氏
調理場所・器具の借用　　：建設企業組合　佐藤祐一　氏

ロゴ案
（高校生作成）

特別講師の盛付例

高校生の作品？

令和３年度の活動概要（２）

第６回地方創生塾（11月）

・試作結果をもとに課題を整理→高校生にアンケート
（値段の設定、トッピングなど）
・パンケーキの大きさや厚さなど完成品のイメージ作り

第7回地方創生塾（12月）

・前回の課題をもとに高校で２回目の試作
・販売をイメージしたトッピング、段取りの確認
（売るということは、安定した「味」「形や大きさ」が必要）

活動報告会（2月）

・市長及び教育長に令和３年度の活動内容を報告
・高校生の発表に対して、市長及び教育長からコメントをいただき
新村塾長・大倉塾長を含めて意見交換を実施した。
↓
【実施した意図】
○高校生のモチベーション維持（令和３年度はカフェ本番無し）
○高校生が市長・教育長と話し合う場を作ることで、少しでも
意識を高めてもらう。

見た目重視で厚くすると
焦げてしまうことも…

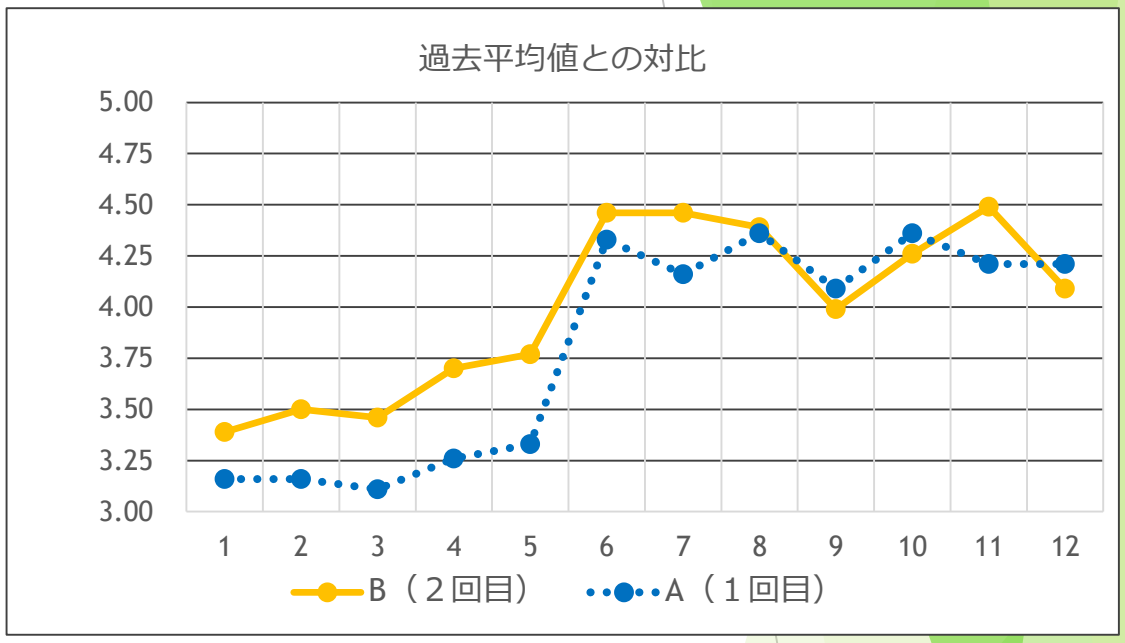
焦げを粉砂糖で隠す方法も考えた…
（もちろん売れないので却下）

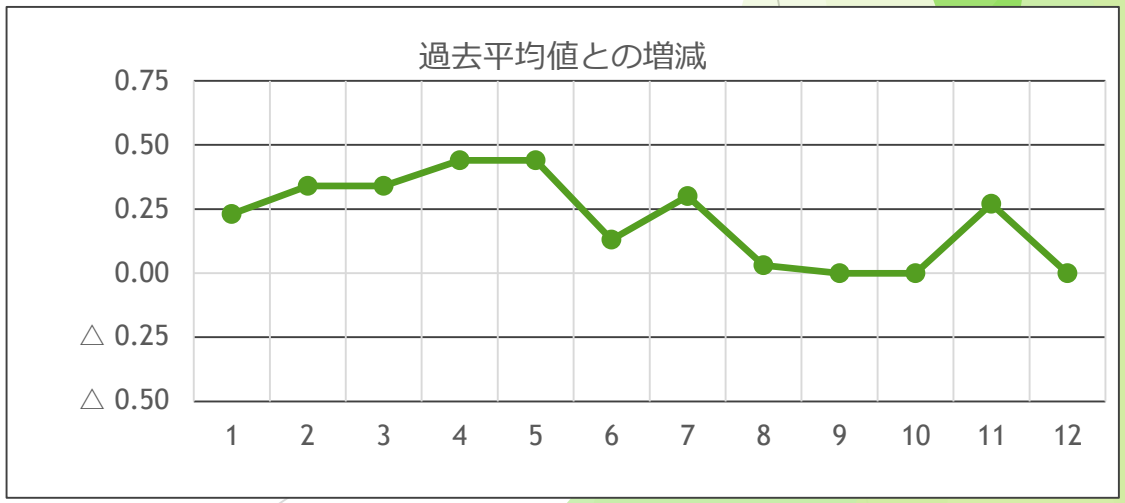
高校生が作成したパワーポイントで
令和３年度の活動内容を報告

市長・教育長と意見交換

令和３年度アンケート結果（１）

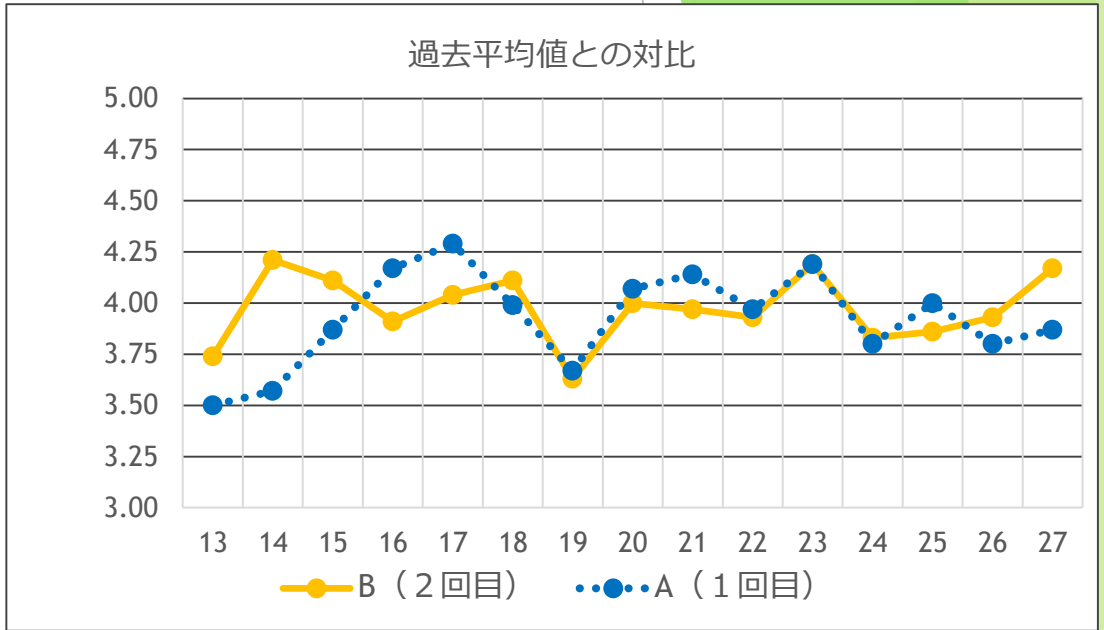
		A 1回目	B 2回目	増減 （A−B）
1	集団で行動するときに先頭に立ってみんなを引っ張っていくことができる	3.16	3.39	0.23
2	メンバーに対して的確な指示ができる	3.16	3.50	0.34
3	自分が行動を起こすことによって、周りの人を動かすことができる	3.11	3.46	0.34
4	私は初対面の人でも気軽に話すことができる	3.26	3.70	0.44
5	自分の意見を相手に伝えることができる	3.33	3.77	0.44
6	相手の話を積極的に聴く姿勢をとることができる	4.33	4.46	0.13
7	メンバーに対して、受容的、肯定的な態度をとるよう心掛けている	4.16	4.46	0.30
8	周囲の人や物事との関係を理解できる	4.36	4.39	0.03
9	メンバーの失敗に対して責任をもつことができる	4.09	3.99	△0.10
10	自分の置かれた環境・状況をよく理解している	4.36	4.26	△0.10
11	周りの人々の役割と自分の関係をよく認識している	4.21	4.49	0.27
12	自分に課せられてた役割や使命をしっかりと自覚している	4.21	4.09	△0.13

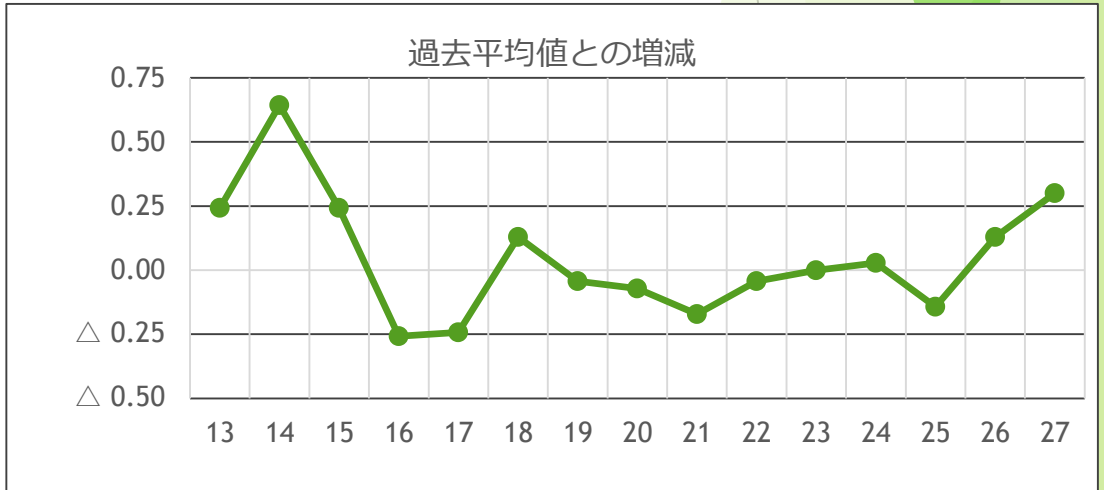




令和３年度アンケート結果（２）

		A 1回目	B 2回目	増減 （A−B）
13	何かに取り組む際に、先を見通して計画を立てることができる	3.50	3.74	0.24
14	取組むべき課題を明確に分析している	3.57	4.21	0.64
15	さまざまな情報源から情報を集め、それを活用することができる	3.87	4.11	0.24
16	数多くの情報の中から、本当に自分に必要な情報を吟味し、手に入れることができる	4.17	3.91	△0.26
17	仕事をするときに、順序立てて何をどうやって取り組んでいけばよいかを決めることができる	4.29	4.04	△0.24
18	目標達成の手段・方法を考え確実に進めていくことができる	3.99	4.11	0.13
19	相手との自分の意見が食い違った場合、相互に有益な妥当点を見出せる	3.67	3.63	△0.04
20	相手の要求を考えて、自分の提案を修正できる	4.07	4.00	△0.07
21	相手と自分の意見が異なっていても、話し合いを重ねる中で意見の折り合いをつけることができる	4.14	3.97	△0.17
22	交渉相手の感情を逆なでせずに、合意の達することができる	3.97	3.93	△0.04
23	相手の要求が自分の意図に反しても、平常心で柔軟に対応できる	4.19	4.19	0.00
24	論理的に自分の考えを述べ、相手を納得させることができる	3.80	3.83	0.03
25	相手が納得できるようにはなすことができる	4.00	3.86	△0.14
26	相手の質問に対して的確に答えることができる	3.80	3.93	0.13
27	自分のことを理解してもらえるように話すことができる	3.87	4.17	0.30





芦別市地方創生塾（令和４年度～）

＜令和４年度からの変更点＞
・市の独自事業『芦別市地方創生塾』として継続
・芦別高校２年生「総合的な探究の時間」に設けられた探究ゼミと連携

１．目　　的
　本事業は、地域の様々な機関や住民等との連携によるワークショップや講演等の実施を通して、地域活動やまちづくりに貢献する人材を育成し、地域の活性化に寄与することを目的とする。

２．主　　催
芦別市教育委員会

３．実施期間
令和４年４月１日～

４．実施主体
・塾長ほか特別講師
・北海道立芦別高等学校
・芦別市教育委員会生涯学習課社会教育係
・空知教育局教育支援課社会教育指導班（運営協力）

令和４年度の活動概要（１）

第1回地方創生塾（4月）

・新メンバーを含めた顔合わせ
・令和４年度活動の確認と年間スケジュール作成

第2回地方創生塾（5月1回目）

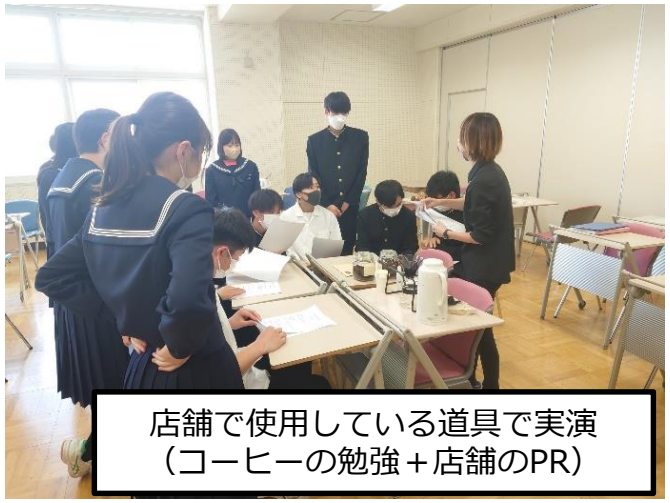
・カフェのドリンク販売の指導・助言に地元で営業している M’s beans 芦別店に協力を依頼し、高校生の前で実演
・ドリンクメニューの検討（高校生が作るか含めて）

第3回地方創生塾（5月2回目）

・ドリンクとパンケーキに別れて試作を実施
・ポスターデザインの完成

第4回・第5回地方創生塾（6月）

・パンケーキの練習とトッピングの最終確認
・当日の役割分担等の確認



店舗で使用している道具で実演
（コーヒーの勉強＋店舗のPR）

ポスター（高校生案）

令和４年度の活動概要（２）　高校生カフェ（第１回）

６月１９日（日）１１：００~１５：００
道の駅屋外スペースで高校生カフェ『ヨッテ』をＯＰＥＮ！

市長をかなり待たせた後に
購入いただきました 冷や汗…

実施結果

・イベントとしては大成功！
・M’ｓ beans 芦別店は過去最高売上を記録！

実施結果に対する反省と課題

・ストックが開店１時間で無くなり１時間待ちに…
・高校生からは、浮かれることなく、多くの反省と改善点が上がる
・まずは体験することを重視とはいえ、販売以外の内容検討が必要

令和４年度の活動概要（３）

第6回地方創生塾（7月）

・第１回高校生カフェの振り返り
・当初のテーマである「世代間交流」「情報発信」について
各グループで話し合い

第7回地方創生塾（10月1回目）

・第２回高校生カフェに向けた準備
・当日会場で発表用動画の視聴し、感想と改善点を
↓
ただ同じ内容で販売だけしても、当初のテーマから遠のく
高校生が自分達で探し、特産品のＰＲ動画を作成
※高校生の目線で発表する（情報発信）

第8回地方創生塾（10月2回目）

・ドリンクメニューの再確認
M’s beans 芦別店の閉店…
全てのドリンクを高校生は自分達でやりたい！
⇒対応しやすさからフレンチプレス式でやってみよう！
・前回の反省をもとに、当日の役割分担を最終確認

高校生による第１回のふりかえり

フレンチプレス式は、直接フィルターにお湯を注がないため、技術的な差がでにくい

メリット　：技術的な差が少ない
デメリット：微粉（コーヒーの粉）が残る
※器具で抽出後、フィルターで濾す方法もあり、
ほぼ微粉の心配は無いが、多少薄く感じる

実際に道具を使って練習

令和４年度の活動概要（４）　高校生カフェ（第２回）

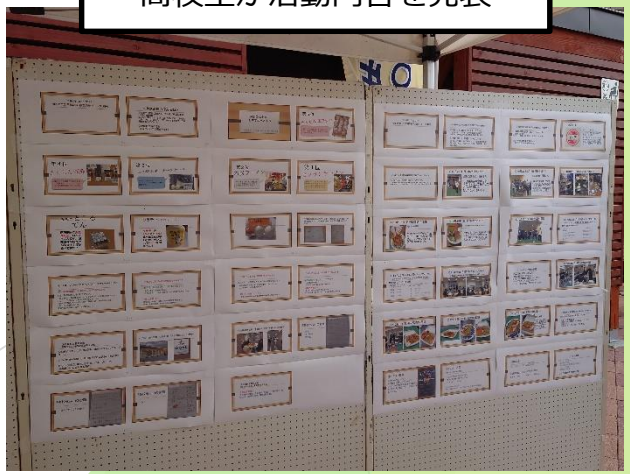
１０月２２日（土）１０：００～１４：００、
道の駅屋外スペースで２回目の高校生カフェ『ヨッテ』をＯＰＥＮ！

今回も大盛況！

大人達で開店前の雑用中！

地域おこし協力隊の方にも
開店準備やアンケート回収も
協力いただきました！

高校生が活動内容を発表



実施結果

・高校生から元気をもらえる！と高評価
・アンケート結果も事業継続の希望が多数あり

実施結果に対する反省と課題

・今回も１時間待ちの行列を作ってしまった
・全体としては前回よりもスムーズだったが、自分のことで精一杯？

令和４年度の活動概要（５）

第９回地方創生塾（11月）

＜高校生カフェの実施結果をもとに振り返り＞　事実

１．販売結果

・収入 55,100円 － 支出 41,596円 ＝ 差引 13,504円の黒字

２．アンケート結果

・メニューを追加してほしい、飲食スペースがほしい
・高校生が頑張る姿に好感が持てた

設　　問	回　　答	
１．高校生の活動発表の感想は？	良い　29件	普通　2件
２．高校生カフェの感想は？	良い　30件	普通　2件
３．高校生にやってほしい企画はあるか？	あり　18件	なし　9件
４．前回と比べ成長しているか？	した　9件	わからない 21件
５．味に問題あったか？（すでに食べた方のみ）	良い　8件	－

３．集客効果

・例年、10月の道の駅の入込数は右肩下がりだが上昇した

	１週目	２週目	３週目	４週目	５週目
入込数	3,052人	2,870人	2,291人	2,757人	1,725人

令和４年度の活動概要（５）

＜高校生カフェの実施結果をもとに振り返り＞　分析

１．販売結果

⇒高校生カフェは、営利目的ではないため、売上の金額は問題ではない。
今回は、「高校生」という付加価値で多くの人が来て完売を達成した。ただし、飲食店が同じ結果ならば、

２．アンケート結果

⇒回答結果のほぼ大半が好評価（回答率５１．６％）
ただし、「高校生にやってほしい企画はあるか？」の問いに「なし９件」の結果は、現状のまま継続で満足であった。言い換えるならば、

３．集客効果

⇒

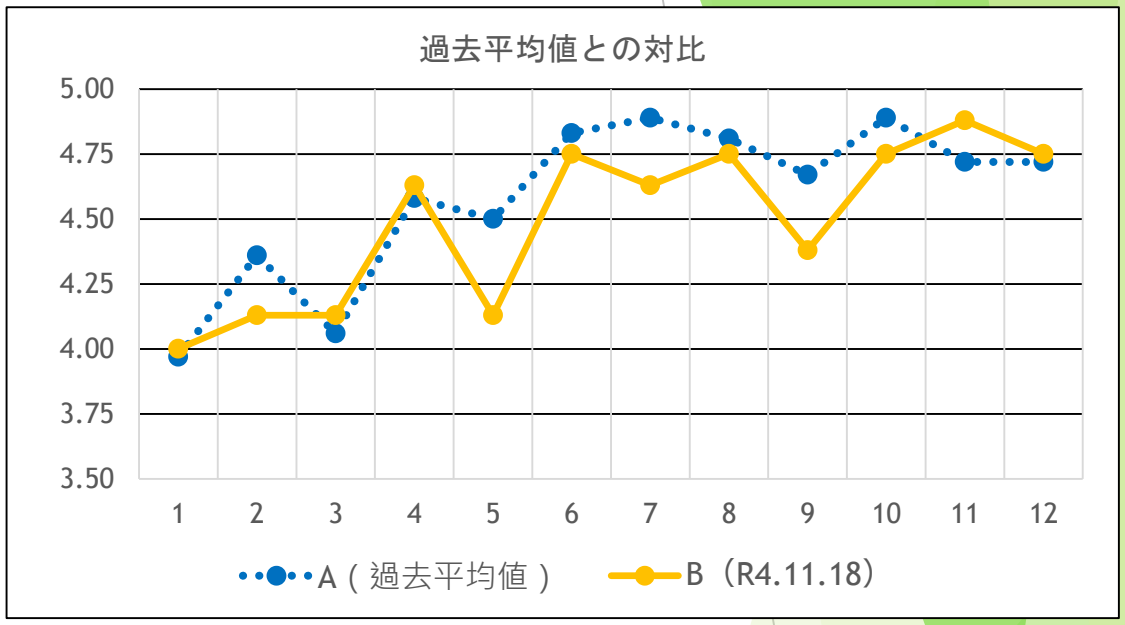
【高校生に知ってほしいこと】

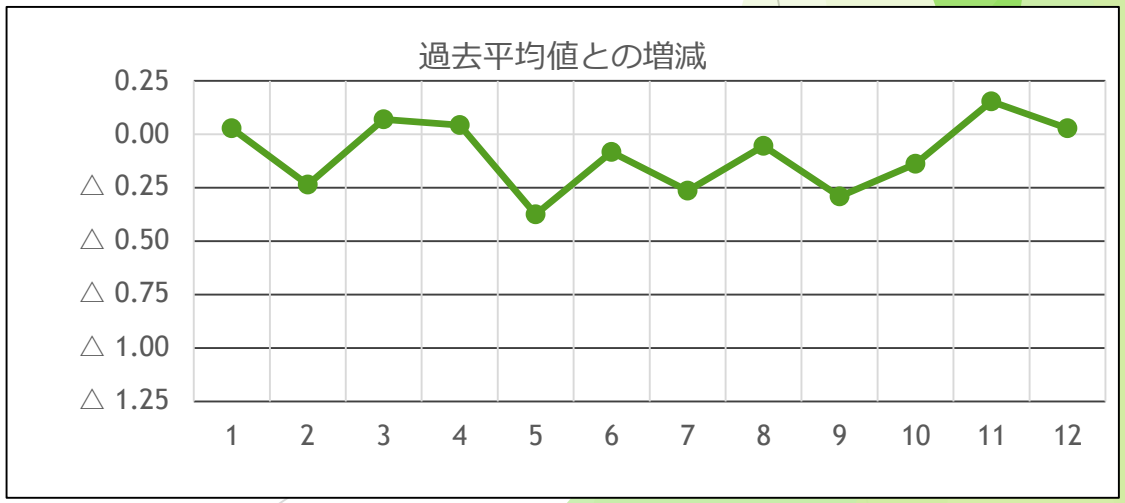
『受付』・『パンケーキ』・『トッピング』・『ドリンク』を分担する中で、自分の役割で精一杯だったと思うが、

自分の役割だけを全うすれば大半のカフェは成立するが、それ以外のことは人任せになりやすい。例えば、従業員全員が「売上が悪くても自分だけのせいではない」を徹底した結果、会社が倒産したら全員が無職になる。

令和４年度アンケート結果（１）

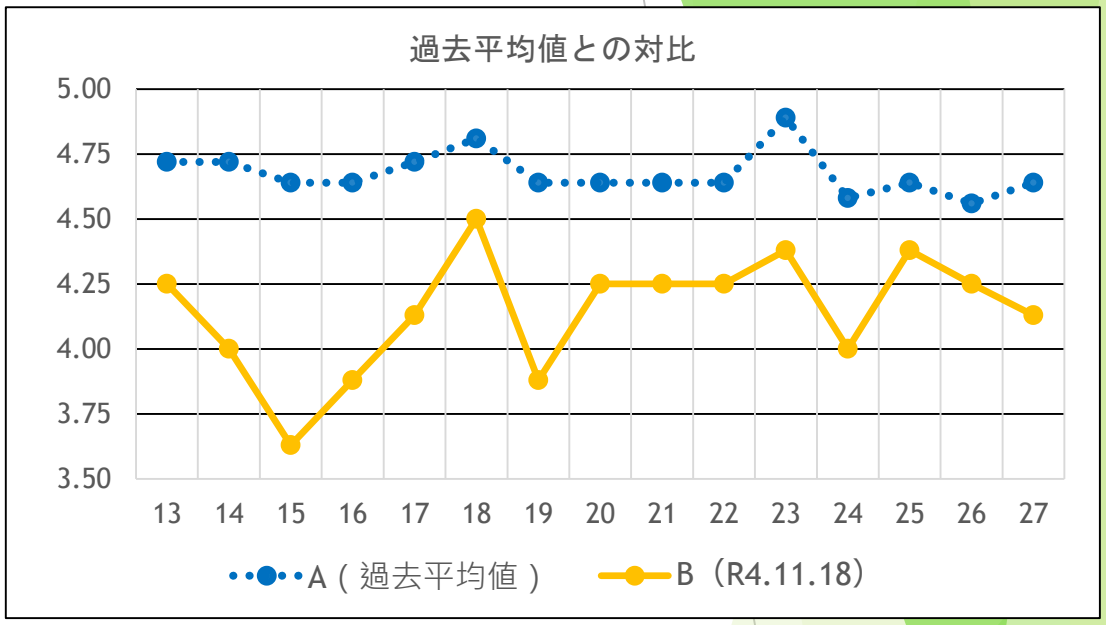
		A 過去 平均値	B R4.11.8 （直近）	増減 （A−B）
1	集団で行動するときに先頭に立ってみんなを引っ張っていくことができる	3.97	4.00	0.03
2	メンバーに対して的確な指示ができる	4.36	4.13	△0.24
3	自分が行動を起こすことによって、周りの人を動かすことができる	4.06	4.13	0.07
4	私は初対面の人でも気軽に話すことができる	4.58	4.63	0.04
5	自分の意見を相手に伝えることができる	4.50	4.13	△0.38
6	相手の話を積極的に聴く姿勢をとることができる	4.83	4.75	△0.08
7	メンバーに対して、受容的、肯定的な態度をとるよう心掛けている	4.89	4.63	△0.26
8	周囲の人や物事との関係を理解できる	4.81	4.75	△0.06
9	メンバーの失敗に対して責任をもつことができる	4.67	4.38	△0.29
10	自分の置かれた環境・状況をよく理解している	4.89	4.75	△0.14
11	周りの人々の役割と自分の関係をよく認識している	4.72	4.88	0.15
12	自分に課せられてた役割や使命をしっかりと自覚している	4.72	4.75	0.03

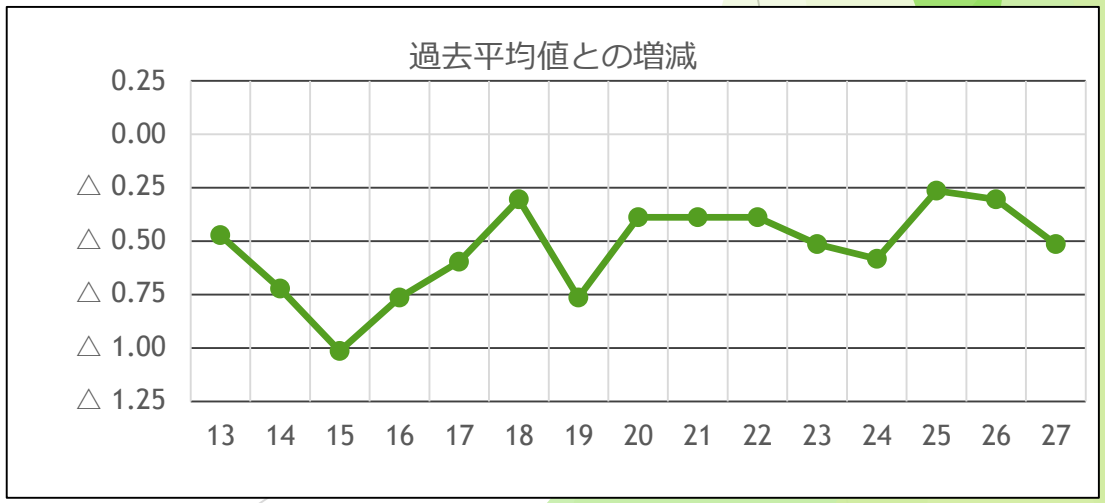




令和４年度アンケート結果（２）

		A 過去 平均値	B R4.11.8 （直近）	増減 （A−B）
13	何かに取り組む際に、先を見通して計画を立てることができる	4.72	4.25	△0.47
14	取組むべき課題を明確に分析している	4.72	4.00	△0.72
15	さまざまな情報源から情報を集め、それを活用することができる	4.64	3.63	△1.01
16	数多くの情報の中から、本当に自分に必要な情報を吟味し、手に入れることができる	4.64	3.88	△0.76
17	仕事をするときに、順序立てて何をどうやって取り組んでいけばよいかを決めることができる	4.72	4.13	△0.60
18	目標達成の手段・方法を考え確実に進めていくことができる	4.81	4.50	△0.31
19	相手との自分の意見が食い違った場合、相互に有益な妥当点を見出せる	4.64	3.88	△0.76
20	相手の要求を考えて、自分の提案を修正できる	4.64	4.25	△0.39
21	相手と自分の意見が異なっていても、話し合いを重ねる中で意見の折り合いをつけることができる	4.64	4.25	△0.39
22	交渉相手の感情を逆なでせずに、合意の達することができる	4.64	4.25	△0.39
23	相手の要求が自分の意図に反しても、平常心で柔軟に対応できる	4.89	4.38	△0.51
24	論理的に自分の考えを述べ、相手を納得させることができる	4.58	4.00	△0.58
25	相手が納得できるようにはなすことができる	4.64	4.38	△0.26
26	相手の質問に対して的確に答えることができる	4.56	4.25	△0.31
27	自分のことを理解してもらえるように話すことができる	4.64	4.13	△0.51





参考：１学年探究活動（地域学習）

【１学年担当の先生から、地域の方を紹介してほしいとの依頼】

○テーマ　：地元芦別を生徒によく考えてもらって、よく知ってもらう
　　世代の違う方たちとの交流、芦別を元気にする・盛り上げる方法を考える

○実施時期：令和５年１月~令和５年３月（グループワーク３回及び発表会【予定】）

○経過及び進捗状況

担当者から高校時代の先輩に引き受けてもらえるか打診したところ了承、他の講師も探していただけることに。
計８名の講師を確保し、先生・講師・教委で打合せを行いながら、進め方や目標を共有。

○講師一覧（継承略）

（有）蛍文堂	代表取締役	石岡　祐二
（株）ドウネン	代表取締役	道島　悠太
ＨＡＮＧＯＵＴ	オーナー	佐藤　祐也
（株）和心	代表取締役	竹内　真
日成建設（株）	代表取締役	坂田　啓一郎
嶋産業（株）	代表取締役	嶋　大輔
（有）ワタナベ企画いんさつ	取締役	大高　陽介
なかそらち森林組合	管理部長	藤田　悠介

【補足】

講師を探す際に、グループワークが高校の授業時間のため、日中でも時間が取れる方、さらには地域を知る青年層がいいとの話しになり、３０代から４０代を中心に声かけを依頼。

講師８名のうち、半数以上が芦別青年会議所の現役メンバーとOBとなりました。

基本、講師が各担当グループの高校生と実施することから、教育委員会は意見が枯渇した際の助言など、あくまでも補助的な立ち位置で関わっています。

まとめ

学校

・地域との連携した取組

課題

行政

・地域活性化に寄与する人材の育成
・地元の高校を支援

課題

塾長

・地元を知ってもらいたい
・地元を好きになってもらいたい
・高校生と何かしらの活動をしたい

課題

関係者が考える
要望・課題
⇓
共通内容から
事業を模索